

■(羽柴)豊臣秀長 武将。秀吉最初の家来になって以降、補佐役に徹して天下をとらせ、その死は、秀吉の歯止めを無くした。

とよとみひでなが
・ ・ ・ ・ ・ 1540 =

尾張国愛知郡中村で、織田信秀に仕えた足輕木下弥右衛門の次男、_豊臣秀吉の4歳下の弟に生まれる。

今川義元登場1542 = 2歳：妹(旭姫)が誕生、

鉄砲伝来・ ・ 1543 = 3歳：父が死去し、母が竹阿弥を入婿に迎え、養父の名から、小竹(こちく)と呼ばれたらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1544 = 4歳：この頃には、寺奉公に出てしまった_兄のことは、ほとんど知らずに育つが、

ザビエル来日1549 = 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1554 = 14歳：織田一族内で主導権を握りつつあった_信長の草履取りになった兄が、木下藤吉郎を名乗り、

・ ・ ・ ・ ・ 1558 = 18歳：

おそらく、小人頭に出世するも、貧農の出で、血縁・地縁もほとんどなかったため、

桶狭間の戦い・ 1560 = 20歳：この頃、_兄藤吉郎の求めに応じて、その最初の家来になり、木下小一郎と名乗って、

川中島最激戦1561 = 21歳：おそらく、兄の、ねねとの結婚式の唯一の身内の役割も果たすべく、_清洲城下に出て、

大村長崎開港1562 = 22歳：*正式に仕官したと思われる。

兄が、戦功と才覚で出世する間、

將軍義輝自刃1565 = 25歳：この年、織田家に仕え、藤吉郎の組下に入った蜂須賀小六正勝ら、

組の足輕たちから信頼されるようになったらしく、

岐阜楽市楽座1567 = 27歳：美濃攻め(斎藤龍興との戦い)では、城の留守居役を務めて、兄が戦功を挙げるのを見守り、信長の命で、兄が迎えた龍興の旧臣の名軍師竹中半兵衛からも認められて、自信もでき、

織田信長入京1568 = 28歳：*兄とともに、名を許され、兄が秀吉と名乗るに対応し、また、織田家重臣としては、珍しく兄を支持してくれている丹羽長秀から名を頂いて、同じ、長秀と名乗る(のち秀長に変える)。兄が京都奉行になって、地位が上がるとともに、第一の家臣として、注目されるようになり、

室町幕府滅亡1573 = 33歳：_秀吉が浅井氏を滅ぼした功で、大名(長浜城主)になるとともに、羽柴姓を名乗るようになり、

長島一揆鎮圧1574 = 34歳：秀吉が越前一向一揆と対峙して出陣できなかったため、秀吉の代理人として長島一向一揆討伐に出陣し、

長篠の戦い・ ・ 1575 = 35歳：自も、羽柴姓を名乗る(発給した文書での初見はこの年で、羽柴小一郎長秀と署名)。

安土城築城・ 1576 = 36歳：_藤堂高虎をはじめ、浅井氏の遺臣が仕官してきて、家臣団が形成され、秀吉による長浜支配の安定に貢献するとともに、この年始まった安土城建設にも対応。

安土楽市楽座1577 = 37歳：秀吉に従って、播磨国に赴き、但馬攻めに参戦、落城させた竹田城を与えられて、_大名になり、

上杉謙信没・ 1578 = 38歳：信長の命で、_秀吉が中国攻めの総司令官となると、山陰道及び但馬国平定の指揮を委ねられ、秀吉陣営の最重要の人物にまで成長、諸戦で活躍、

安土教会許可1579 = 39歳：常に、野心なく、客観的な判断をした竹中半兵衛が死去してしまうなか、_大將軍になった兄秀吉を御し、かつ、新旧の家臣らの調整に一層苦労しながら、

石山合戦終・ 1580 = 40歳：_但馬国平定を成し遂げ、武将としての面目を一新。但馬国人の多くは羽柴家家臣になり、播磨・但馬の2ヶ国を拝領して、姫路城と有子山城を居城とする中大名に進む。手に入れた生野銀山の生産を振興し、

バリヤーノ謁見 1581 = 41歳：鳥取城の戦いでも、包囲する陣城の一つを指揮して、終戦に導く。_大量の銀を、安土へ届ける。

本能寺の変・ 1582 = 42歳：_信長が明智光秀によって暗殺されると、秀吉の"中国大返し"に従って、山崎の戦いに参戦し、

賤ヶ岳の戦い・ 1583 = 43歳：_賤ヶ岳の戦いにも参戦、戦後、論功行賞の一環として、美濃守に任官、

長久手の戦い・ 1584 = 44歳：_信長が死去し、秀吉が覇権を握ったことを機に、長秀から秀長へ改名、以後、没するまで使用。徳川家康との間で小牧・長久手の戦いが起きると、織田信雄を監視し、講和交渉では秀吉の名代として直接交渉。この戦いでの失態により、甥の羽柴秀次が秀吉に叱責されると、その後の紀伊・四国への遠征で共に従軍し、秀次の信頼回復に尽力。

豊臣秀吉関白1585 = 45歳：_紀州征伐では、秀次と共に秀吉の副将に任命され、制圧後、紀伊・和泉などの約64万石余の所領を与えられ、藤堂高虎を普請奉行に、和歌山城を築城し、

秀吉太政大臣1586 = 46歳：*続く、四国攻めでは病気で出陣できない秀吉の代理として、総大将に任じられ、長宗我部元親を降して、紀伊国、河内国に、大和国を加増されて、合計100万石で郡山城に入り、ついに、大大名の仲間入りし、領国支配の内政面にも辣腕ぶりを示して行くとともに、太政大臣になった兄秀吉とともに、豊臣姓を受け、

バレン追放令 1587 = 47歳：_九州平定にも、総大将として出陣し、戦後、その功績で、徳川家康と同日に、従二位権大納言に昇進し、大和大納言と称されるようになるが、

刀狩海賊取締1588 = 48歳：紀伊の雑賀で、材木の管理する代官が、その代金を着服する*事件が起きて、兄秀吉から責任を問われ、

・ ・ ・ ・ ・ 1589 = 49歳：大坂城で、諸大名と共に、秀吉に新年祝賀の太刀進上を行ったのを最後に、_兄秀吉と会わないうち、

秀吉全国統一1590 = 50歳：病が悪化して、小田原征伐には参加できず、

土農工商公布1591 = 51歳：郡山城内で、_没した。

温厚な性格で、兄秀吉を補佐し、また、異を唱えて制御するとともに、豊臣政権における調整役として、その安定には欠かせぬ貴重な人物で、兄の偉業達成に貢献した。長寿を保ったならば、豊臣の天下を永く継続させたかもしれないといわれる。